

各地区の課題と基本方向

本市は、国道36号や国道274号、道道江別恵庭線等の幹線道路、JR千歳線沿線などの交通の利便性の高い地域に、国有林を取り囲む形で市街地が形成されてきました。これらの市街地を中心とした、東地区、西地区、西の里地区、それぞれの地区がもつ特性や機能を考慮しながら、土地利用、諸施設の整備など、計画的なまちづくりを進めていきます。

- 1 東地区

(1) 地区の特性

東地区は、明治17年(1884年)、一村形成の志を抱いた和田郁次郎ら広島県人の集団入植によって開拓が始まった本市発祥の地です。以降、JR千歳線や道道江別恵庭線が整備され、交通機関、高校・大学等の文教施設、市役所等の公共機関、金融機関、商業施設などが集積する市の中心的な地区として発展してきました。

また、JR北広島駅の西側に北広島団地があり、さらに土地区画整理事業などによる宅地開発、道都大学の学生増に対応したマンション等の建築が進むなど、居住エリアとしての環境が充実してきています。

JR北広島駅周辺では、東口の土地区画整理事業や、芸術文化ホール、図書館、駅の東西の地域を結ぶ連絡橋(エルフィンパーク)が建設され、まちの顔にふさわしい都市空間づくりが進んでいます。

一方で、国有林をはじめとする豊かな森林や河川などの自然が市街地の身近にあり、市民の生活にうるおいとやすらぎを与えています。

産業では、東の里、南の里の千歳川左岸の低地が稲作地帯となっているほか、北

の里や南の里では酪農・畜産や野菜の生産が行われています。共栄と北の里には、国道274号を挟んで2つの工業団地があり、約40社の企業が立地操業しています。また、自然景観や眺望に恵まれた場所に竹山高原温泉と札幌北広島プリンスホテルがあり、年間20万人以上の人々が訪れています。

(2) 地区の課題

J R北広島駅周辺と中央地域の一带は、まちの顔にふさわしい都市空間としての土地利用を促進する必要があります。

北広島団地は、戸建て住宅を主体とし、分譲後20年以上が経過しているため、居住者の高齢化が進んでいます。

地区内の低地帯においては、千歳川本・支流の総合的な治水対策の強化が求められています。

中の沢地域は、道都大学の学生が行き交う地域にふさわしい市街地の形成が求められています。

市の中心的な地区としてJ Rやバス路線網の交通結節機能を充実強化する必要があります。

商業・業務施設は、J R北広島駅西口、道道江別恵庭線沿道、中央市街地などに集積していますが、市の中心的な地区として、今後さらに機能の充実が求められています。特に、道道江別恵庭線の東側地域に、生活圏に密着した商業機能が必要となっています。

共栄、北の里の工業団地及び周辺地域においては、企業の立地促進による産業機能の充実が求められています。

(3) 地区の基本方向

東地区は、東部市街地、北広島団地、共栄と北の里の工業団地を含む一带の地区で、本市における行政、文化、商業・業務、交通などの中核的機能をもつ地区とします。

中の沢においては、道都大学の機能を生かし、学生が行き交うエリアにふさわしい市街地の形成に向けて、土地利用を促進します。

道道江別恵庭線の東側地域においては、住居、商業・業務など市街地に厚みをもたせるため、計画的な土地利用を促進します。

東部稲作地帯については、昭和53年(1978年)から道営ほ場整備事業が実施され、総合的な土地基盤整備が図られています。今後も、良質米の作付けを進めるとともに、畑地利用も可能な土地基盤づくりに努め、転作作物の収益化をめざします。国道274号、道道江別恵庭線のもつ交通・輸送機能を生かし、工業団地及び周辺地域における工業・流通系の土地利用を促進します。

JR北広島駅周辺と中央地域の一角を、市の顔にふさわしい地域とするため、駅西口交通広場の整備等のほか、民間活力を導入して、商業業務施設の誘導や優良な住宅の集積、公共駐車場の整備を促進します。

JR北広島駅を中心とした北広島団地、東部市街地のエリアで、札幌北広島自転車道等を基軸に、「自転車利用環境整備モデル地区」としての施設整備、環境整備を進めます。

JR北広島駅を中心とした交通結節機能を生かし、南空知圏を含めた交通の拠点としての機能を高めていきます。

西裏線、共栄南1号など地区内の道路整備を進めます。

宿泊施設やホール機能をもつ地区として、広域的なイベントの開催やコンベンションの誘致を積極的に進め、本市の活性化を促進します。

千歳川の総合的な治水対策を関係機関と連携し促進するとともに、河川防災ステーションなどの整備を促進します。

北広島レクリエーションの森、総合運動公園、平和の灯公園、輪厚川親水空間、札幌北広島プリンスホテル周辺、ふれあい公園、緑葉公園、竹山高原温泉、きたひろサンパークなどを含むエリアを創造の森ゾーンとして、自然と創造の調和した環境づくりを進めます。

住宅マスタープランに基づき、市営住宅の環境整備を進めます。

市民の利便性やまちづくりとの整合性に配慮しながら、市役所新庁舎の整備に取り組めます。

- 2 西 地 区

(1) 地区の特性

地区内を南北に国道36号、道央自動車道が通り、北広島インターチェンジ、国道と道道栗山北広島線との結節など、札幌市、新千歳空港、北広島市街への交通の要衝となっています。この立地条件を生かした工業団地では、約120社の企業が立地操業しています。

大曲、輪厚地域とも民間の宅地開発や土地区画整理事業などによる住宅地形成が進み、人口が急増しています。新たな住民の増加により、地区の年齢構成は、他地区と比べると若い世代が多くなっています。こうした人口増加に対応して、小・中学校や保育施設などの整備を進めています。

また、この地区は、ダイコン、ニンジンなどの畑作と酪農地帯としての役割を担っているほか、豊かな自然にいだかれた地域として、スキー場、ゴルフ場、キャンプ場などの野外スポーツ・レジャー施設があり、多くの人を訪れています。

地区内の島松は、明治初期から、中山久蔵らによる開拓の歴史をもつ地域であり、「旧島松駅通所」、「クラーク記念碑」、「寒地稲作発祥の地の碑」など北海道の開拓史上、重要な史跡が保存されています。

(2) 地区の課題

西地区の人口増加に対応した公共・公益施設や商業・業務施設の充実を図る必要があります。

国道の交通渋滞緩和、都市機能の向上、地区環境の改善等に大きな役割を果たす都市間幹線道路「羊ヶ丘通」の整備促進が求められています。

輪厚地域においては、住居、商業・業務機能など市街地に厚みをもたせるため、計画的な土地利用の促進が求められています。

大曲第3工業団地の分譲状況、経済状況、工業用地の需要動向などを見きわめながら、新たな工業団地開発を検討することが必要となっています。

地区内の自然環境や道央自動車道等の交通環境を生かした都市機能の充実が求められています。

国指定史跡となっている貴重な歴史・文化財を守り、継承していくための環境整備が必要となっています。

(3) 地区の基本方向

西地区は、大曲市街地、輪厚市街地、大曲工業団地を含む一帯の地区で、交通の利便性を生かした高い産業機能、居住機能をもつ職住近接型の地区とします。

都市の機能を高めるため、既存市街化区域内の未整備地区を含め、計画的な土地利用を促進するとともに、商業・業務機能の充実を図ります。

地区内の人口増加に対応し、道路・公園、下水道、消防機能など公共・公益施設の整備を進め、市街地としての成熟を図ります。

国道36号、道央自動車道など、道央圏の交通の要衝という地理的条件を生かした産業機能を高めるため、工業・流通系の土地利用を促進します。

交通の利便性に恵まれていることや長年にわたる産地形成の取組みにより、ダイコン、ニンジンなど市場性の高い野菜の生産が進められており、今後は、軽量野菜の導入も含め、集約的な農業の確立を図ります。

輪厚中央通、大曲榎山線など地区内の道路整備を進めます。

交通渋滞の緩和と都市機能の向上を図るため、「羊ヶ丘通」の整備を促進します。

大曲地域に、複合的なコミュニティセンターを整備し、地域のコミュニティの醸成や市民活動の活性化を図ります。

人口が増加している輪厚地域のまちづくりと整合性を図りながら、西部小学校の整備を進めていきます。

輪厚地域の市営住宅の建て替えを行い、居住環境の改善を図ります。

北海道の開拓の歴史を伝える貴重な史跡である「旧島松駅逕所」「クラーク記念碑」「寒地稲作発祥の地の碑」をもつ地区として、歴史や風土を生かした環境の整備などを図っていきます。

豊かな自然に抱かれ、スキー場、キャンプ場、ゴルフ場等の施設をもつことから、都市近郊のレクリエーション・レジャーゾーンとしての機能を高めていきます。道央自動車道の機能を生かし、輪厚パーキングエリア周辺の開発の可能性を検討していきます。

- 3 西の里地区

(1) 地区の特性

西の里地区は、明治28年(1895年)頃からの入植により、少しずつ集落が形成されていましたが、昭和45年(1970年)からの北海道住宅供給公社による西の里団地の造成を契機に、国道274号に接して住宅地が形成されてきました。さらに近年、土地区画整理事業による新しい住宅地ができ、人口が増加しつつあります。地区内に2つの高等学校もあり、通勤・通学のためのJR上野幌駅の利用が拡大しています。

また、この地区には、特別養護老人ホームや身体障害者授産施設、児童養護施設、児童自立支援施設などの社会福祉施設が集中しています。このため、地域でともに支えあい生活するための様々な事業やボランティア活動が展開され、福祉のまち、ノーマライゼーションのモデル的な地区となっています。

国道沿いは、コンビニエンスストアなどの沿道型サービス施設が増加しているほか、地区内の農業地帯では、野菜や花きを中心とした生産が行われています。また、地区の南側一帯には、天然記念物「野幌原始林」を含む国有林と農林水産省の種苗管理センター北海道中央農場が広がっています。

(2) 地区の課題

東地区との連携を強めるため、国道274号に沿って住宅、商業・業務、工業、流通など、計画的な土地利用を促進する必要があります。

JR上野幌駅の利用者の増加に対応し、広域的な視点で、札幌市と連携した駅周辺環境の整備が求められています。

地区内の住民の消費需要に対応するため、商業・業務機能の充実が求められています。

北西部地域開発計画の促進が必要となっています。

障害者と健常者がともに生活するモデル的な地区として、いっそうのノーマライゼーションの推進、バリアフリーに配慮した市街地整備が求められています。

西の里団地は、北広島団地と同様、居住者の高齢化が進んでいます。

地区における医療施設の充実が求められています。

(3) 地区の基本方向

西の里地区は、住宅地としての機能を中心に、国道274号の沿道利用による流通系や工業系などの産業機能をもつ地区とします。

計画的な土地利用や既存住宅地の整備を促進するとともに、住民の利便性向上のため、商業・業務機能の充実を図ります。

各種の福祉施設が立地しているノーマライゼーション推進地区として、ともに支えあう地域づくり、人にやさしいまちづくりを積極的に進めます。

北西部地域開発にあたっては、情報通信、保健・医療・福祉、エネルギー、生活関連などの研究開発を中心とした企業等の誘導を図るとともに、西の里地区の利便性の向上や雇用の場を創出するため、JR上野幌駅周辺の基盤整備の充実と商業・業務施設等の立地を促進します。また、交通の利便性を生かし、住宅地としての土地利用を促進します。

消費市場に近い地理的条件に恵まれ、野菜や花きを中心とした生産が行われています。今後は、地区の実情に合わせ、都市住民との交流を中心とした産地直売、市民農園、観光農園などの展開を図ります。

市街地整備の進展や人口増加の状況等により、コミュニティ施設などの公共・公益施設の充実を図ります。

大曲椴山線、西の里中学校通線など地区内の道路整備を進めます。

JR上野幌駅へのバス乗り入れなど、交通結節機能の強化や地区内交通機能の整備を促進します。

住宅マスタープランに基づき、市営住宅の環境整備を進めます。

地区内に広がる国有林は、市街地の身近にある貴重な森林として、人と自然環境の共生を図りながら保全していきます。

地区内を通る札幌北広島自転車道の整備とあわせて、周辺の自然環境を生かした「学習の森」や「水辺の広場」等の関連施設の整備を行い、東地区や札幌市との交流を積極的に促進します。